

津山市議会議員

政岡あきひろの議会報告

まさおか

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。

ごあいさつ

津山市民の皆様、いつもお世話になっております。政岡あきひろの議会報告第9号をお届けします。ご覧いただきますよう、よろしくお願いしたいと思います。

さて、津山市議会は任期の前半が終わり、議長も交代しました。また、各常任委員会などの議会構成も一新されました。さらには、新年度となり執行部の体制も新たな編成となりました。

私自身についていえば、与えられた職責を果たすために懸命に取り組んで来た二年間でしたが、ようやく議会の実相も見えてきたように思います。また、**会派「未来」**を結成する仲間も出来ました。人数は少数ですが、正當に議員としての本質を追究していく気持ちは一致しています。

これまで以上に、津山市の将来や明日の津山を担う子どもや孫世代の為に成すべきことについて、真摯な姿勢で議論を行かなければならないと、決意を新たにしています。



今回お知らせする内容

さて、今回の議会報告においては、先の六月議会における質疑の模様と、本年四月二十三日にリージョンセンターで行いました、市政報告会についてお知らせしたいと思います。

政岡あきひろ市政報告会

昨年は、議員としての一年目を振り返り、市政報告会を院庄公民館で行いました。しかし今年度は、より多くの市民の皆様にご意見を聴かため、また、より多くのご意見を聴かせていただくために、大田のリージョンセンター・ペントホールにおいて「政岡あきひろ市政報告会」を開催しました。

当日は、四月二十三日(日)の十九時からという、まことにお出かけた難い日程にも関わらず、ペントホール一杯にお集まりいただきました。



ました。おかげさまで、盛会に充実した市政報告会を開催することができました。感激と感謝の気持ちで一杯です。改めて、皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成二十九年六月議会の質疑内容

この、六月議会におきましては①市長の施政方針と②津山市立幼稚園の統廃合計画に関する課題について、一般質問を行いました。

私は、二元代表制における議会の権能を十分に発揮させることが、議員に与えられた重大な責務であり、使命であると考えています。そのためには、執行部と議会が相互に緊張感を持ちながら、お互いに敬意を持ち相手手を尊重し合いながら、真摯な議論をして行くことが重要です。

そこで、今回の一般質問における市長の施政方針に関する質問では、そのような、市民の為に有益な議論を行うために必要な、議会との信頼関係の構築を図るために、市長はどのようなことを考えているのかという点について、先ず登壇の当初質問において質しました。

これに対する答弁では、そのような「気持ちを持って」という答弁をいただきましたが、これまでの市長の言動などから、そのことが実感できないのも事実です。したがって私は、変えられない過去ではなく、変えられる未来についての改善を求めました。

市長からは、今後においては議会や議員との、信頼関係の構築に努

▲裏面に続く

る所存である旨の答弁をいただきました。そのことに関する検証と、自身も虚心坦懐に市民の為の議論をして行く姿勢を持ち続けることが大切だと考えています。

さらに、市長の施政方針に関する質問では、議会に対する的確でタイムリーな情報提供と、しっかりとそれが議論できる場の提供を求める質問をしました。

背景として、私がこの二年間で感じた印象では、執行部から議会に対して提供される情報は、既に他の協議会や審議会などで決定されたものが多く、その内容について議会が十分に吟味し、精査できる機会が与えられていないことが多いからです。

実際、昨年院庄公民館で行われた総務文教委員会による議会報告会の席では、今回取り上げた公立幼稚園に関して、鋭く射たご意見を市民の皆様から頂きました。その時私を感じたことは、この二年間においていえば、そのような意見を反映させるための議論の場が、あまり無かったことです。

例えば、幼稚園問題に限らず、駅前・城下などの整備計画、或いは美術館構想など多くの案件に関して、執行部から提供される情報は遅く、議会がその権能を果たすための機会が少なくないように、私は感じておりました。そのことから、今回は市長に対して執行部によるタイムリーな情報提供と、議会がしっかりと関与して議論を行うための場の提供を求めました。結果的には、「適切で迅速な情報提供に心がけ、あらゆる場面で十分な説明責任を果たしたい」という答弁を

いただきました。

これに関しても、しっかりと実行されることを検証していかねればなりません。また、市長に対しては、このような一般質問の機会を通して、明日の津山が生き残るために、何かに特化した施策の必要性について、繰り返しお尋ねしておりますが、今回も「あらゆることを、力の限り」という答弁の範疇を超えた明確な方向性は示されませんでした。

続いて、現在進められている、東西二園への公立幼稚園の統廃合計画に関する経緯の確認と、二宮地区に計画されている西エリア幼稚園に関する課題の検証に関する質問を行いました。

子ども保健部長から、これまでの経緯について説明を受け、都市建設部長との間で、西エリア幼稚園に関する造成計画や、発生する残土の流用・処理計画などについて精査し、効率的で効果的な整備計画の実施を求めました。

さらには、アクセスに関する課題や、進入・退出に関する安全でスムーズな利用法の抽出を求め、そのことに関する提言も行いました。

一般質問を終えて

全体を通して、どこかもどかしい印象であったことは否めません。それは、これまで繰り返し問い続けて来た、子や孫達のために今やっておかなければならないことを思うからです。つまり、このまちの生き残りをかけた何かに特化した施策が必要

だということですが。

これについて、得られた答弁はこの二年間ほぼ変わっていません。この五年間で、市債発行残高(市の借金)を八億七千万円増やし六十七億円にして、今年度は過去最高の四百九十六億円という史上最大規模の予算編成をしながら、「このことに特化したまちづくりで、津山は生き残っていくのだ」という明確な方向性は示されませんでした。

私は、前日も今回も「このまちを愛し、このまちの生き残りのために必死で取り組む気持ちがあれば、将来に渡って津山が県北の雄都であり続けるための、何かに特化した斬新な施策実施が図れるのでは」と問いかけ続けて来ました。

このことに対して、このまちの将来のランドデザインが明確に描かれていると感じられる答えが得られなかったことがまことに残念です。それでも、今後においても子どもや孫の世代の為に資する施策実施の実現に向け、精一杯取り組んでいきたいと考えています。今後とも、一層のご指導・ご鞭撻よろしくお願いいたします。

